

Oracle® Enterprise Manager

System Monitoring Plug-in インストール・ガイド for Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE)

リリース 7 (1.1.1.0.0) からリリース 9 (1.2.1.1.0)

部品番号 : B53229-01

2009 年 2 月

このドキュメントでは、まず Oracle System Monitoring Plug-in for Sybase Adaptive Server Enterprise の概要を説明し、次に、このプラグインでサポートされるバージョンの詳細、およびインストールの前提条件を示します。さらに、プラグインをダウンロード、インストール、検査および検証するための手順を説明します。

1 説明

System Monitoring Plug-in for Sybase Adaptive Server Enterprise は、Oracle Enterprise Manager Grid Control を拡張して、Sybase Adaptive Server インスタンスを管理できるようにするためのプラグインです。このプラグインを Grid Control 環境にデプロイすることで、次の管理機能を使用できるようになります。

- Sybase Adaptive Server インスタンスの監視。
- Sybase Server インスタンスの構成データの収集および構成の変更の追跡。
- 監視対象メトリックおよび構成データに設定されたしきい値に基づくアラートおよび違反の表示。
- 収集データに基づいた豊富なレポートの提供。
- リモート・エージェントによる監視のサポート。ローカル・エージェントは、Sybase Adaptive Server と同じホストで稼働するエージェントです。リモート・エージェントは、Sybase Adaptive Server が稼働するホストとは異なるホストで稼働するエージェントです。

2 サポートされるバージョン

このプラグインでは、次のバージョンの製品がサポートされます。

- Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.1 以上 (Oracle Management Service および Oracle Management Agent)
- Sybase Adaptive Server Express (XE)、Enterprise (EE)、および Developer (DE) エディションのバージョン 12.5.4 以上

注意： System Monitoring Plug-in for Sybase Adaptive Server は、Sybase Adaptive Server クラスターの監視に対して動作保証されていません。詳細は、次の場所で入手可能な『Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in トラブルシューティング・ガイド』に記載されている既知の問題を参照してください。

<http://www.oracle.com/technology/documentation/oem.html>

ORACLE®

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Enterprise Manager は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

3 前提条件

プラグインをデプロイする前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- Sybase Adaptive Server Enterprise バージョン 12.5.4 以上がインストールされていること。
- Oracle Enterprise Manager Grid Control の次のコンポーネントがインストール済みで実行中であること。
 - Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.1 以上
 - Oracle Management Agent 10.2.0.1 以上 (このリリースのエージェントでサポートされる任意のプラットフォーム)

エージェントは、Sybase Adaptive Server と同じコンピュータ上にインストールする (ローカル・エージェント監視) か、Sybase Adaptive Server と異なるコンピュータ上にインストールする (リモート・エージェント監視) ことができます。
- プラグインをデプロイするすべてのエージェントで優先資格証明を設定し、検証します。詳細は、「プラグインをデプロイする管理エージェントの構成」を参照してください。
- (Microsoft Windows で稼働するエージェントの場合) ユーザーの OS 権限 (エージェントの優先資格証明で設定) が、次のいずれかのインストール・ガイドのジョブ・システムを Enterprise Manager で機能させるための資格証明の設定に関する項に記載されている要件を満たしています。
 - 『Oracle Database インストール・ガイド for Microsoft Windows (32-bit)』
 - 『Oracle Database インストール・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』
 - 『Oracle Database インストール・ガイド for Microsoft Windows (x64)』

これらのガイドは、次の場所の Oracle Database ドキュメント・ライブラリのインストール・ガイドのセクションにあります。

<http://www.oracle.com/pls/db102/homepage>

注意: ユーザーに適切な権限を割り当てないと、デプロイに失敗します。

- MDA 表への問合せを行うには、事前に MDA 表がインストールされている必要があります。MDA 表は 12.5.0.3 以上の場合にのみ存在します。MDA 表をインストールするには、次の手順を実行します。
 1. 構成パラメータ `enable cis` が 1 に設定されていることを確認します。設定されていない場合は、ASE を再起動します。次のコマンドを実行します。

```
sp_configure 'enable cis', 1
go
```
 2. サーバー名の別名として `loopback` を追加します (インタフェース・ファイル内に `@servername` も定義されているものとします)。この手順は、15.0 ESD#2 以上の場合には必要ありません。

```
use master
go
sp_addserver loopback, null, @servername
go
```

3. この構成をテストします。この手順は、15.0 ESD#2 以上の場合には必要ありません。

```
set cis_rpc_handling on
go
```

または、次のコマンドを実行した後、セッションを切断して再接続します。

```
sp_configure 'cis rpc handling', 1
exec loopback...sp_who -- note: 3 dots!
go
```

4. MDA 表をインストールします。このスクリプトは `sqsh` を使用して実行しないでください。これを行うとエラーが発生します。`sqsh` は `$` を `sqsh` 変数の開始とみなすため、ネイティブでの RPC 名が変わってしまいます（これらの RPC 名も `$` で始まるため）。そのため、次のように `isql` を使用するか、または `sqsh` を `-Lexpand=0` オプション付きで（つまり `sqsh` の変数拡張機能を無効にして）実行してください。ASE 15.0.2 以上では、このスクリプトは `installmaster` に含まれています。

```
isql -U sa -P yourpassword -S YOURSERVER \
-i $$SYBASE/$SYBASE_ASE/scripts/installmontables
```

5. MDA アクセスを許可されたログインに `mon_role` 割り当てます。これには `sa` ログインも該当します。

```
use master
go
grant role mon_role to sa
go
```

6. MDA の基本構成を次のようにテストします。現在使用中のログインにこのロールを付与した場合は、`mon_role` をアクティブにするために、いったん切断した後で再接続しなければならない場合があります。

```
select * from master..monState
go
```

7. すべての構成パラメータを有効にします。これらはすべて動的で（`per object statistics active` パラメータを除く）。ここでは、`pipe` 表のメッセージ数はすべて 100 に設定されていますが、より大きな数を指定することもできます。

```
sp_configure "enable monitoring", 1
go
sp_configure "sql text pipe active", 1
go
sp_configure "sql text pipe max messages", 100
go
sp_configure "plan text pipe active", 1
go
sp_configure "plan text pipe max messages", 100
go
sp_configure "statement pipe active", 1
go
sp_configure "statement pipe max messages", 100
go
sp_configure "errorlog pipe active", 1
go
sp_configure "errorlog pipe max messages", 100
go
sp_configure "deadlock pipe active", 1
go
sp_configure "deadlock pipe max messages", 100
go
```

```
sp_configure "wait event timing", 1
go
sp_configure "process wait events", 1
go
sp_configure "object lockwait timing", 1
go
sp_configure "SQL batch capture", 1
go
sp_configure "statement statistics active", 1
go
sp_configure "per object statistics active", 1
go
```

8. ASE 15.0.2 の場合は、次のコマンドも実行します。

```
sp_configure "enable stmt cache monitoring", 1
go
```

9. SQL バッチ数が多くなることが予想される場合は、次の静的パラメータをより高い値に設定してください（この設定は1ユーザー接続当たりのバイト数で指定します）。

```
sp_configure "max SQL text monitored", 2048
go
```

注意： 次の構成パラメータを有効にすると、5%以上のパフォーマンス・オーバーヘッドが生じます。

```
sp_configure "sql text pipe active", 1
sp_configure "sql text pipe max messages", 100
sp_configure "max SQL text monitored", 2048
sp_configure "plan text pipe active", 1
sp_configure "plan text pipe max messages", 100
sp_configure "statement pipe active", 1
sp_configure "statement pipe max messages", 100
sp_configure "statement statistics active", 1
sp_configure "per object statistics active", 1
```

- JDBC URL の一部として、IP アドレスもホスト名も使用できます。ホスト名がネットワークで一貫して解決されることを確認します。`nslookup` や `tracert` などの標準 TCP ツールを使用してホスト名を検証できます。プラグインをデプロイする管理エージェントで次のコマンドを使用して検証します。
 - `nslookup <hostname>`
IP アドレスと完全修飾ホスト名が返されます。
 - `nslookup <IP>`
IP アドレスと完全修飾ホスト名が返されます。
- プラグインは、TemDB のキャッシュ・サイズに依存する場合があります。

4 Sybase Adaptive Server の監視構成

Enterprise Manager を使用して Sybase Adaptive Server ターゲットを監視するには、Sybase Adaptive Server ユーザーに `mon_role` ロールが付与されている必要があります。監視を行うユーザーについては、`mon_role` 権限に加え、次の `sys` 表にアクセスするための `Select` 権限が必要です。

- `syslisteners`
- `sysloginroles`
- `sysssrvroles`

次のコマンドを実行すると、ユーザーに `Select` 権限が付与されます。

```
grant select on syslisteners to public
go
grant select on sysloginroles to public
go
grant select on sysssrvroles (name, srid) to public
go
```

このコマンドでは、データベース内のすべての既存ユーザーに `Select` 権限が付与されません。監視担当ユーザー (`monuser`) のみに `Select` 権限を付与するには、次のコマンドを実行してください。これらのコマンドを実行するには、`sa_role` 権限が必要です。

1. グループを作成します。

```
sp_addgroup OracleEMGroup
go
```

2. 作成したグループに、ユーザー `monuser` を追加します。

```
sp_adduser monuser, null, OracleEMGroup
go
```

3. `OracleEMGroup` に、表に対する `Select` 権限を付与します。

```
grant select on syslisteners to OracleEMGroup
go
grant select on sysloginroles to OracleEMGroup
go
grant select on sysssrvroles (name, srid) to OracleEMGroup
go
```

5 プラグインをデプロイする管理エージェントの構成

エージェントを構成するには、まず、エージェント・サービスを起動するユーザーがローカル管理者グループに属していることを確認します。また、プラグインをデプロイするすべてのエージェントで優先資格証明を設定する必要があります。これを行うには、次の項の手順に従います。

5.1 ユーザーへの高度な権限の割当て

(Microsoft Windows のみ) Microsoft Windows 環境で高度な権限を割り当てるには、次のようにします。

1. エージェントをホストするローカルの Microsoft Windows ノードで、エージェント・サービスを起動するユーザーがローカル管理者グループに属していることを確認します。そうでない場合は、追加します。
2. Windows の「ローカルセキュリティの設定」ツールを開き、エージェント・サービスを起動するユーザーに次の高度な権限を付与します。
 - オペレーティング システムの一部として機能
 - プロセスのメモリ クォータの増加
 - バッチ ジョブとしてログオン
 - プロセス レベル トークンの置き換え
3. エージェント・サービスが稼働している場合は、再起動します。
4. Grid Control でホストとエージェントに対する優先資格証明を設定します。詳細は、「[JDBC ドライバの設定](#)」を参照してください。
 - 優先資格証明で設定する OS ユーザーは、ローカル管理者グループに属している必要があります。
 - この OS ユーザーは、次の高度な権限を持っている必要があります。
 - オペレーティング システムの一部として機能
 - プロセスのメモリ クォータの増加
 - バッチ ジョブとしてログオン
 - プロセス レベル トークンの置き換え

5.2 優先資格証明の設定と検証

プラグインをデプロイするすべてのエージェントで優先資格証明を設定するには、次のようにします。

1. Enterprise Manager Grid Control で、「**プリファレンス**」をクリックします。
2. 「プリファレンス」ページの左側のペインで「**優先資格証明**」をクリックします。「優先資格証明」ページが表示されます。
3. ホスト・ターゲット・タイプの対応するターゲット・タイプについて、「**資格証明の設定**」列からアイコンをクリックします。
4. ホスト優先資格証明ページの「ターゲットの資格証明」セクションで、プラグインをデプロイする管理エージェントが稼働しているホストのユーザー名とパスワードを指定します。
5. 資格証明の設定後、同じページで「**テスト**」をクリックします。テストが正常に実行されたら、資格証明は適切に設定されています。
6. プラグインをデプロイする管理エージェントに対して OS コマンド・ジョブを実行します。
 - Enterprise Manager Grid Control にログインします。
 - 「**ジョブ**」タブをクリックします。
 - 「ジョブ・アクティビティ」ページで「ジョブの作成」リストから「**OS コマンド**」を選択し、「**実行**」をクリックします。
 - 次のページで必要な詳細を入力し、「**発行**」をクリックしてジョブを実行します。ジョブが正常に実行されたら、資格証明は適切に設定されています。

6 プラグインのデプロイ

前提条件を満たしていることを確認した後、次の手順に従ってプラグインをデプロイします。

1. Sybase Adaptive Server プラグインのアーカイブを、ブラウザを起動しているデスクトップまたはコンピュータにダウンロードします。アーカイブは、Oracle Technology Network (OTN) からダウンロードできます。
2. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
3. Grid Control ホームページの右上隅にある「設定」リンクをクリックし、次に「設定」ページの左側にある「管理プラグイン」リンクをクリックします。

図 1 に、「管理プラグイン」ページを示します。

図 1 管理プラグインのデプロイ・ページ

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control interface. The main content area is titled 'Management Plug-ins'. It contains a table with the following data:

Select	Name	Version	Deployed Agents	Description	Deployment Requirements	Deploy	Undeploy
<input type="checkbox"/>	sybase ase	1.0.3.0.0	1	This plug-in offers monitoring, configuration and ...	Requires network access and proper credentials to Sybase ...		

4. 「インポート」をクリックします。
5. 「参照」をクリックしてプラグインのアーカイブを選択します。
6. 「リスト・アーカイブ」をクリックします。
7. プラグインを選択して「OK」をクリックします。
8. プラグインのデプロイ先のエージェントすべてに優先資格証明を設定したことを確認します。
9. 「管理プラグイン」ページで、Sybase Adaptive Server プラグインの「デプロイ」列のアイコンをクリックします。管理プラグインのデプロイ・ウィザードが表示されます。
10. 「エージェントの追加」をクリックして、プラグインのデプロイ先のエージェントを1つ以上選択します。ウィザードが再び表示され、選択したエージェントが表示されます。
11. 「次へ」をクリックし、「終了」をクリックします。
優先資格証明が設定されていないというエラー・メッセージが表示された場合、「プリファレンス」ページに移動してエージェント・ターゲット・タイプの優先資格証明を追加します。
12. デプロイのステータスを確認するには、「関連リンク」に移動し、「デプロイ・ステータス」リンクをクリックします。

7 JDBC ドライバの設定

次に示すのは、Sybase Adaptive Server プラグインに jConnect を設定するための手順です。

1. `www.sybase.com` から、jConnect JDBC ドライバのバージョン 6.0 をダウンロードします。
2. `$ORACLE_HOME/sysman` に `jdbcdriver` ディレクトリを作成し、前述の `.jar` ファイルをそのディレクトリに置きます。
3. `$ORACLE_HOME/sysman/config` ディレクトリ下の `classpath.lst` ファイルに、ドライバの `.jar` ファイルの場所を追加します。
4. エージェントのインストール先のシステムが OS クラスタの一部になっている場合は、`$ORACLE_HOME/<node_name>/sysman/config` ディレクトリ内の `classpath.lst` ファイルを編集する必要があります (`node_name` には、そのエージェントが属しているクラスタ・ノードの名前を指定します)。

`classpath.lst` ファイルがない場合は作成します。たとえば、UNIX 環境の `classpath.lst` ファイルは次に示す例のようになります。

```
/home/usera/agent/sysman/jdbcdriver/sybase/jConn3.jar
```

8 TCP/IP ポート情報

次の項では、TCP/IP ポートを有効にするため、および特定の Sybase Adaptive Server インスタンスの TCP/IP ポートを探すために必要な情報について示します。

8.1 TCP/IP ポートの有効化

Sybase Adaptive Server のすべてのエディションについて、次の手順を実行します。

1. **Sybase Adaptive Server Configuration Manager** で、左側のパネルから「**Sybase Adaptive Server Network Configuration**」を選択し、Sybase Adaptive Server インスタンスに移動します。

右側のパネルには、指定した Sybase Adaptive Server のすべてのプロトコルとそのステータスが表示されます。

2. TCP/IP が有効になっていることを確認します。
3. (TCP/IP が無効の場合) 「TCP/IP」を右クリックして「**Properties**」を選択します。「TCP/IP Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「Protocol」タブで、「**enabled**」を選択して「**Apply**」をクリックします。
5. Sybase Adaptive Server インスタンスを再起動します。

8.2 TCP/IP ポートの検索

特定の Sybase Adaptive Server インスタンスの TCP/IP ポート番号を検索するには、次の問合せを実行します。

```
Select address_info from syslisteners
```

この問合せを実行すると、ホスト・アドレスとポート番号が返されます。

9 監視対象インスタンスの追加

プラグインが正常にデプロイできたら、次の手順に従って、プラグイン・ターゲットを Grid Control に追加します。これにより、ターゲットが集中的な監視および管理の対象になります。

1. プラグインをデプロイしたエージェントのホームページで、「追加」ドロップダウン・リストから Sybase Adaptive Server ターゲット・タイプを選択し、「実行」をクリックします。Sybase Adaptive Server の追加ページが図 2 のように表示されます。

図 2 構成プロパティ・ページ

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 10g interface for adding a Sybase Adaptive Server Enterprise target. The page title is "Add Sybase Adaptive Server Enterprise". There are buttons for "Test Connection", "Cancel", and "OK".

Properties

Name: Sybase
Type: Sybase Adaptive Server Enterprise

Name	Value
JDBC URL	jdbc:sybase:Tds:stmp12.idc.oracle.com:4100
JDBC Driver	com.sybase.jdbc3.jdbc.SybDriver
Database Username	**
Database Password	*****

Monitoring

Oracle has automatically enabled monitoring for this target's availability and performance, so no further monitoring configuration is necessary. You can edit the metric thresholds from the target's homepage.

Buttons: Test Connection, Cancel, OK

Footer: Home | Targets | Deployments | Alerts | Compliance | Jobs | Reports | Setup | Preferences | Help | Logout
Copyright © 1996, 2007, Oracle. All rights reserved.
Oracle, iD Edwards, PeopleSoft, and Ptek are registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.
About Oracle Enterprise Manager

2. プロパティに次の情報を入力します。
 - **名前**:すべての Grid Control ターゲットにわたって一意なターゲット名 (SybaseServer_Hostname など)。これは、Grid Control での表示名です。この名前は、Grid Control 内のすべてのユーザー・インタフェースで、この Sybase Adaptive Server ターゲットを表すために使用されます。
 - **JDBC URL**: jdbc:sybase:Tds:<system>:<tcp/ip port> の形式で URL を指定します。
例: jdbc:sybase:Tds:stmp12.idc.oracle.com:5000
 - **JDBC ドライバ**: オプションのパラメータ。この値は、com.sybase.jdbc3.jdbc.SybDriver の形式で指定します。
 - **データベース・ユーザー名**: データベースに対して有効な、mon_role のユーザー。
 - **データベース・ユーザーのパスワード**: データベース・ユーザーに対応するパスワード。
3. 「接続テスト」をクリックして、入力したパラメータが正しいことを確認します。
4. 接続テストが成功した場合、手順 2 の暗号化されたパラメータを再入力して、「OK」をクリックします。

重要: 暗号化されたパラメータを再入力しないで「OK」をクリックした場合、ログイン失敗を示すエラーが発生する場合があります。

プラグインをデプロイし、環境内で監視する1つ以上のターゲットを構成したら、次はプラグインの監視設定をカスタマイズできます。具体的には、使用する環境の特別な要件に合わせて、メトリックの収集間隔やしきい値の設定を変更できます。なお、1つ以上のメトリックについて収集を無効にした場合、それらのメトリックを使用したレポートに影響が及ぶ可能性があります。

10 プラグインの検査および検証

プラグインがデータの収集を開始するまで数分間待機したら、次の手順を実行して、プラグイン・ターゲットが Enterprise Manager で適切に監視されているかどうかを確認および検証します。

1. エージェントのホームページの「監視ターゲット」表で、Sybase Adaptive Server ターゲット・リンクをクリックします。Sybase Adaptive Server のホームページが表示されます。

Sybase Adaptive Server のホームページが図 3 のように表示されます。

図 3 Sybase Adaptive Server のホームページ

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 10g interface for a Sybase Adaptive Server Enterprise target. The top navigation bar includes links for Home, Targets, Deployments, Alerts, Compliance, Jobs, and Reports. The main content area displays the target's status as 'Up' with a green arrow icon, 100% availability, and a 'Black Out' button. Below this, there are sections for Alerts and Host Alerts, both showing 'No Alerts found.' There are also links for Configuration and Related Links.

Metric	Severity	Alert Triggered	Last Value	Last Checked
No Alerts found.				

Metric	Severity	Alert Triggered	Last Value	Last Checked
No Alerts found.				

2. 「メトリック」表に、メトリック収集エラーが報告されていないことを確認します。
3. 「レポート」プロパティ・ページをクリックして、レポートが表示されていること、およびエラーが報告されていないことを確認します。
4. 「構成」セクションの「構成の表示」リンクをクリックして、構成データが表示されていることを確認します。構成データがすぐに表示されない場合は、「構成の表示」ページで「リフレッシュ」をクリックします。

11 プラグインのアンデプロイ

プラグインをエージェントからアンデプロイするには、次の手順を実行します。

1. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
2. 「ターゲット」タブを選択して、次に「すべてのターゲット」サブタブを選択します。「すべてのターゲット」ページが表示されます。
3. Sybase Adaptive Server プラグイン・ターゲットを選択して「削除」をクリックします。この手順は、特定のバージョンのプラグインのすべてのターゲットに対して実行する必要があります。
4. プラグインのデプロイ先のエージェントに優先資格証明が設定されていることを確認します。
5. 「すべてのターゲット」ページの右上隅にある「設定」リンクをクリックし、次に「設定」ページの左側にある「管理プラグイン」リンクをクリックします。「管理プラグイン」ページが表示されます。
6. Sybase Adaptive Server プラグインの「アンデプロイ」列のアイコンをクリックします。「管理プラグインのアンデプロイ」ページが表示されます。
7. Sybase Adaptive Server プラグインに現在デプロイされているエージェントをすべて選択して「OK」をクリックします。

プラグインを Enterprise Manager から完全に削除するには、システムのすべてのエージェントからアンデプロイする必要があります。

8. 「管理プラグイン」ページで Sybase Adaptive Server プラグインを選択して、「削除」をクリックします。

12 プラグインのトラブルシューティング

次のパラメータが Sybase Adaptive Server プラグインに対して有効になっていない場合は、メトリック収集エラーが発生する可能性があります。

```
sp_configure "sql text pipe active", 1
sp_configure "sql text pipe max messages", 100
sp_configure "max SQL text monitored", 2048
sp_configure "plan text pipe active", 1
sp_configure "plan text pipe max messages", 100
sp_configure "statement pipe active", 1
sp_configure "statement pipe max messages", 100
sp_configure "statement statistics active", 1
sp_configure "per object statistics active", 1
```

13 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

14 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照 ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in インストール・ガイド for Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE) ,
リリース 7 (1.1.1.0.0) からリリース 9 (1.2.1.1.0)

部品番号 : B53229-01

Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in Installation Guide for Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE),
Release 7 (1.1.1.0.0) to Release 9 (1.2.1.1.0)

原本部品番号 : E12775-03

Copyright © 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

制限付権利の説明

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

